

乙卯年

東京城の機關少尉候補生
機關少尉候補生(東京城)
機關少尉候補生(東京城)
機關少尉候補生(東京城)



空中税関を飛行機に

空中通過後には人の發達で、
飛行機の製造とその工場の振興、
に大なる力を注いでゐる。

一朝夕の飛行機

其の多量の飛行機と飛行機の製造、
に大なる力を注いでゐる。

列強に既

其の多量の飛行機と飛行機の製造、
に大なる力を注いでゐる。

米國と佛國の間に

其の多量の飛行機と飛行機の製造、
に大なる力を注いでゐる。

京城見物

其の多量の飛行機と飛行機の製造、
に大なる力を注いでゐる。

米兵輸送船撃沈

二百六十七名溺死
米兵輸送船「サウスカロライナ」が、
敵機に撃沈された。

腹を燃らした河豚料理

河豚料理は、
腹を燃らした。

軍器密造

軍器密造、
密造された。

大阪難波病院の火

大阪難波病院の火、
火災が発生した。

大田の火事

大田の火事、
火災が発生した。

某事件の新生

某事件の新生、
事件が再発した。

面開かん

面開かん、
面を開かない。

奥様方は篤志看護婦に

奥様方は篤志看護婦に、
看護婦の活動が紹介された。

商況

商況、
市場の動向が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

大坂米相場

大坂米相場、
米の価格が紹介された。

的に利用する様になつた。之を空軍に下航空機の補給は射するには普通の火砲の弾丸の内、大型銃弾時間の長きものに或る元素例へば酸素とか亞硝酸、硝酸等を用ふる。

歐洲大戰と其影響

時の歐洲戰爭は兵器材料の進歩を促せること、影しい、併し、要兵器たる小銃及び火砲は依然として戰前の物を用ひ機銃も別大なる變化は無く之等は何れもが陸軍で用ひてゐるものと殆ど變はない。

而して之を用ふるには常に砲臺を願慮する事が大切で、若し敵陣地に侵入せしむのである、其用ゐるの三種で各々其の目的が異なるが、其他種々の砲を用ひて活動してゐる。

一、航空機射砲

航空機射砲は、近く敵に相對して或る發射機を用ひて一時に多量の砲彈を發射せしむる方法と目下併用されてゐる、而して之を用ふるには常に砲臺を願慮する事が大切で、若し敵陣地に侵入せしむのである、其用ゐるの三種で各々其の目的が異なるが、其他種々の砲を用ひて活動してゐる。


二、野戰機射砲

野戰機射砲は、近く敵に相對して或る發射機を用ひて一時に多量の砲彈を發射せしむる方法と目下併用されてゐる、而して之を用ふるには常に砲臺を願慮する事が大切で、若し敵陣地に侵入せしむのである、其用ゐるの三種で各々其の目的が異なるが、其他種々の砲を用ひて活動してゐる。

三、固定機射砲

固定機射砲は、近く敵に相對して或る發射機を用ひて一時に多量の砲彈を發射せしむる方法と目下併用されてゐる、而して之を用ふるには常に砲臺を願慮する事が大切で、若し敵陣地に侵入せしむのである、其用ゐるの三種で各々其の目的が異なるが、其他種々の砲を用ひて活動してゐる。

火砲と其種類
西の戦艦
砲兵戰が行はれ、隨つて兩軍の兵器の衰損物や破壊物が多大である様だが、之が補充の爲め別に兵器を用ひて居る様でもない。水陸砲は組合上若干其種別を分けてゐるやうで例へば佛軍の如く開進せしむ自ら損害を受ける様な場合がある又之が防衛手段として要する若しくは口實に非ざるを斯く輸出すべき薬品を製造する等諸種の研究が積まれつつある。尚ほ此毒瓦斯の原料となるべき物は其國の工業原料と相關聯するものである。因々によつて多量に得られるものを使用すれば足り、貯蔵之

[illegible]

城に於て用ひらぬのは蓋し日露兵は甲地より乙地へ迅速に移動
戦役の當時我軍砲兵が廿八瓏榴弾をせしむる爲め、又機砲の特長輕
便な點を使用したるを以て嚆矢とするしな裝甲自動車をも凡そ方面自
由の四十二瓏、佛質の五十瓏機砲並に活躍してゐる、之は薩洲集
約砲の如きゆるもので前進の要求に足らぬ如き支路の有利なる状態
で現出せるもので敢て驚くに足不相待して始めて略く利用されるので
ある、我陸軍でも最近既に三十瓏ある

△航空機の發達　航空器に
備舞砲を試験し隨うが成積を果げ

次に特種の兵器としては孰ては今更に些々を要しない、大

進撃砲である之も近世に於ては日射戰迄は世界各國中最も長足の進歩をしてゐる。戦後、敵艦の防禦が利用したのが、艦隊を爲してゐる、今日盛に歐洲戰に用ひられてゐる此砲は距離を遠く達しないが種々を障礙物を要するに最も威力がある故斯に敵艦には是非必要で我に我軍でも採用せしむべきものである。

而して戰爭が始つて以來其戰術は電氣等の研究は何れ

公毒利期^のの用^を 使用して對敵の戰力^をを奪ふ事は
 之れは人道に背くといふので國
 際法でも明かに禁せられてゐる
 のである。然るに歐州戰爭の始まつ
 た數年^の自^ら一九一五の春イギリス
 附近の戰に獨逸軍が始めて此毒氣
 を放射したので全世界の中立國から
 に攻撃を受けたが毫も顧みら
 ず、實際上に大なる教訓を受け略ぼ完全
 日本^のの戰事^にに付て第一
 戰後の海運
 競争に對
 各國の進歩
 三、日本

[illegible]

懸賞

第一等賞金 白圓一萬圓
 第二等賞金 金五十圓
 第三等賞金 金十圓

募集要旨

皇朝の防塞建築案募集は、
を主として調査を表したる
特に中階級の住宅を標
したるは、相當の實力あり
採用の資格者、且経済的多数
可きを豫期せるが爲めであ
茲に建築者諸君の發露に資
が爲め、左に我祖今次の募
を摘録す。

建坪 四十坪乃至五十坪迄
併し二階建設の割合も延

年、此般の
過せざる事
家族 夫婦老人、子供三、五
中、二階七人深、狭い防塞
建築案 平廊、正廳、二階
計、設計書、を具備す可し
工費 坪數の内外とす
特案 特に防塞設備を施す
たる構部分の詳細を圖面
及び說明書
寒度 京城、平壤、兩地方
適當する程度の防塞構造

るに國家の補助金は、實に所大の一事なり。一八九六年の補助は、發行以前に在るは、噸以上、汽船六十四隻、中自建造に係るも、僅か一處を過ぎざりしが、今、増進に致し、最良式を船所を有する。其江に於て最良の船を有するに而して二十年以前に於てあらざるも、致し、各種の事柄を合して日本海運の前途を見るべし。其別號を除く日本船主及び船業は、英國の地位を占め、如、幾度々遠るは、さし、擲りたる所なり。

二、松州學堂の設立

柏梁粉蘭句 並小引

戊午二月、松州學堂、黃州縣、六日、它國時、同人、招飲於其

東京、神田、本町二丁目
行所 東京、日下、三軒茶屋
電話 〇六八〇
支店 東京、本町二丁目
電話 〇六八〇

▲補助金に對する反對運動に
其の氣勢漸く盛んならんと
するものあり其の速く廢止案議會
提出せられんこと且船舶所有者にし
次第に所有船の登録を開始する
ものあり反之有力なる政治家に
て河運の發展に對しては其の大
の努力を辭せて聞言せるも

全建運額一萬三千噸に過ぎざ
に今日に在ては建助中のもの
萬噸を數ふるの感に來た
本に於ては現今運送材料の
計り獨鐵産業の開發熱中せ
れども其の熱鐵鐵工の缺乏
しきは船舶上に於ける大缺
可し尙ほ日本は船舶の建造
と共に其の購入に於て大に噸數
の増加を見るも此等の増加
を足らざる戰時價格を支拂
ては注外なる戰時價格を支拂
あるの一事に看過す可から
此等の海運業者は戰後に至
自運の運賃に甘せざるを得ざ
し目下投入せる異常なる費用
に付き大なる困却に會するの恐れ
に於て離す可きは海運

公國府本堂、以盤一夕之歡矣、
に、歐氣大陸、王子、屏時歸國
知陰等、越時客也、庸知、如水魚
相失其無恙、新舊番部、益於座
骨、援軍、擬相援、隨句、衆乘
定、東南南、別離、以、機
之妙技、雲、起、隨、以、機
之意、忽而、起、隨、以、機
也、天南作竹、衆、出、於、精、而
以、亦、同、壯、其、人、靜、軒、若、未、日
拜、其、眼、之、酒、益、財、途、不、覺、上
正、顏、也、蓋、未、之、一、快、事、散、事
正、一點、猶、知、會、之、數、也
餘、句、曰、

○勝、獨、曰、○州、有、
○喜、○宵、茶、頭、○日、
○鶴、飛、來、去、留、○如、水、
○春、雅、會、涉、風、流、○生、狂、

六十六
「お父様は、只今家へまゐりて候。財あるた。」
これらう之丈は國情に厭つて大の
親交・近事をなさるが更に國情の一之にけりたる之を主として作
成を導込んで其子(即ち旅)二被派給ふをせなければならぬ。國
情との間は此處に好い機會は日遠きまで待つて都合はさて
置居すの日から親交に聞かせたる事にし二三日の間せつかも作
と思つた事柄を程よく拘交せてつた例の小兒欺しのペンキを小
づつかしい威盛で語して聞かせる能く押込んで用が出来るよ

環瑠子に聞く中に、間にも一たび悲憤の聲を叫喚を思はれ、泣く泣く涙を溜めてゐたが、其處で環瑠子は急に悲鳴の聲が聞かれたので環瑠子は急に歸りかけたが、一旦、目下、貴下、今午も申しました通り父や兄が何にか失敗した事や申上げましても何うも氣に障へないで下さいまし。ほんとに申上げかねますけれど、言ひまして、奥に隠すに愛想笑をしましたのね、あの何處へかお出掛けしますのね、あの何處へかお出掛け

[illegible]

懸つた上二人を今更取返すなと云ふ事があつてはそれこそ新向が出来ないよ、此ら諸々其前に出来たりはめく述して非道な父や兄が希望の兒子から免れさせて置くのみならず世間の口の端に免れる事を免れしめた、どうなるか力づくより謀計で云ふ事になると思ふ用ふるは先づ敵を知るに勝つるは心なく被注まし、

る。國柄は通な心を抑へて三日と
云ふもの専ら親子二人の研究に耽
つた。

よく見るで成宿留の主婦が言つ
た通り瑠璃子は決して一人である
事は許されない。配度親子の中間
方が、人が見張つてゐる。其癖全
然自由を奪はれてゐるかと思へば
強ちそうでも無いらしく短時間と

まことにお氣の毒極でございます
が、「ね、歸りましたら」國柄
は答へかけたが其間もなく親配に
其正しい妻をねつて入口に現はし
顔に深い入の字を刻みながら太い
植簪を斜に構へて國柄と瑠璃子と

影宅になりましたら何卒なるなけ
お眠をなさいませんやうにね、

云「塵」散歩は勝手である。わが赤い丸印にどうやら親子の在り。三關があるらしく或晩何の里に親子三人も外出した事があつた。其の印は消れてゐて、晚く親父と娘とが歸つてくるに當時に再び赤く付いた事があつたが、それから買物に出るのは親父と息子で、は無いが用事に出るのは息子で親父つた。

任七年以式
四年役及府
四月拾將生

[illegible]

書籍販賣募集

○五期自三月一日至廿五日
○現開市者郵券二張要交付

吉住鄉軍人

月拾壹日午前九時大和町並兵
動本所會所にて戦元を別表式
勳章奉還式舉行院官列席成役

在郷軍人会分會

本校生徒左記
詳見本校通り募集文

生徒募集

土木科學年拾八名
建築科學年拾貳名
電氣科學年貳拾名
機械科學年廿五名
探鑛科學年廿五名
入學者資格
男子十歲以上二十歳以下女子七歳以上十四歳以下中等學校畢業生若夫之上下同等

出願期日
大正七年四月五日限り

出願手續
入学願書、履歴書及出身校長ノ署名成績證明書有經驗ノ事ヲ明記シ、郵便掛入用封筒ニ封入、本校校長宛東京府麹町二丁目

朝鮮及滿洲社編輯纂
 一、預約價二圓
 一定價二圓五十錢
 送朝鮮十二
 內地滿洲三千

▲本書は本朝鮮及滿蒙叢書の第一編として發行せしものなり、上編下編併せて七百餘頁發行の計なり、誌に於ては併合後の最も新しき朝鮮各地誌にして同時に支那の諸地誌に於ては併合前の地誌にして、將來は知りて現在に於ては本書の右に出づるもの無きを斷言して彈力に充てしむるに自家廣告の爲めに誇張するを欲せず公評に待たんとす、下編は來月出版す、本社に直接申す。

朝鮮學術研究會編輯 發行所 東京市牛久保町二丁目 朝鮮社發行
電話二二五〇番 郵政貯金東京支店
朝鮮學術研究會編輯 發行所 東京市牛久保町二丁目 朝鮮社發行
電話二二五〇番 郵政貯金東京支店
朝鮮學術研究會編輯 發行所 東京市牛久保町二丁目 朝鮮社發行
電話二二五〇番 郵政貯金東京支店

學生諸君 御待兼の入學試験問題 賣切内 買ふて入學の榮を得られ事を

友誼亭四郎著 兩野慈路伯型

朝鮮鑛石學採鑛法 四二頁 定價 圓五十頁 送料 圓六十頁

發賣元 京城大正通一丁目 電話 六六〇番 振替 京盤三〇〇番


賣捌所 大阪屋號 京城日報社代理 嚴松堂

せて居たが、午刻を過ぎてからま
 たり取ら詰めて、今にも息が絶え
 うに苦しむ、櫻子は見るに見難
 うに、また祈願を籠めやうと思ひ
 つた
 隠方から軋へかけて、多少快
 やかに見わたのは、我身の顛倒を
 受けたされた神様の姿に、相違な
 い前に、顔があつたのであるが、今
 度も、感に必ずあらう、一には父の
 無事を願ひながら、どうせ無い命と
 覺悟して居る、むさうと捨てて
 又は、一人の父や、心に良人さ
 らぬ人のお命に代つたら、此の上
 ない本望である、さういふ沙
 心の勝を喫めて、私の身影が西の
 崖山へ春きかけた時、初潮の枕頭
 へすり寄つた、面の色がよく見
 えて、呼吸も苦しうに見わ
 れた、宗藏は柔く顔を撫で居る

何うも、可憐なものでございませ
 ぬ、か蛇足の見納めであらう、嫌な
 極まるまで、熱くお手を握り直さ
 づの希望が雲の如く胸に起る、
 それが通じたらしく、初夜は錦
 子を覗いて
 「橋島どの、御心配を損ますの
 心持も首を捻て云つた
 といへ、あなた、思ふやうな御
 抱を為さませんで、氣の毒に思
 へばかりでございます、橋本のさ
 の神卒路と申す處に、大さうな
 いお藥があるさうでございます
 ら、是から歸へに行つて参りま
 しょう、さうも御手を遣はして下
 さいまし」
 「親切に、然し、神卒路の
 申すは遠方ぢやござらぬか」
 「つい近くださうでございます
 吉野川を渡ります、僅か二十
 せらへと聞きました、つゝ、歸つ



では、一寸待つてまいります。
下を向いた根柢の口皮にも、
の爲か變顔も露かれる
氣分付けて行らつしやいまし
宗藏、引張られるやうに云ふ
桐島は振へ切つて、そのま
が空を駈出した
門戸に當家の内儀が襦袢の紐を
で拵け、桐島に觀へ寄つて
「お内儀さん、御振が堪ます」
と、さくし交掛けた

 **日報俳壇**

[illegible][illegible]

讀者の方へ
 痛快だ、小料理屋に一つ、肴くち藝妓の
 大抵はだらう、肴くち藝妓の
 ぬるぬるの感なんことを望む（所
 ）。△日米仁川高木病院の幽
 を描く一風圖散はうと夜なく
 の人々、語んで居る。幽霊と云ふ
 名は誤りさうきでは無い。ある事
 出来り、即ち遊ばせたり、現れて見
 然して津村兄弟商店の
 人々五五五五

知事さんから人參五キスに
親より方一生健全也
に兒には物である果して西村の
居ると云ふに概來博士に度て
必ず分明するこれから附合
つきてお話をしましょうか（
ト生）▲そろ／＼陽氣になつ
年の短く狂犬病が流行する季
に來た此の客犬の主人
の犬が狂犬病に罹つて他人
を感へ掛けられ安全な
を請けもらいたくない、きま
昨年の様に狂犬が激しく出
して外出が出来なくて困

生徒募集
 年四月入部セムベキ第一學
 徒約五拾名ヲ募集ス許細ハ一
 十五日以降ノ便詳海嶺官撰
 本分飲出ニ就キ承合スベシ
 大正七年二月
 申
 泉
 城
 校
大田分教室
 時計貴金屬信輪
 京送返町門
 三浦

商鏡眼
 地方の御注
 式は金男
 子に参り
 目下無雙
 堂龍天

白神洋行
 鐵鋼材
 浪板、平板
 對金、洋釘
 新田帶草總代理店
 〔郵便部別〕 郵便代給代通

東京明治治一丁目
電話二四六番
內科
小兒科
入院隨意
無料施療
古川憲法
上野亮

司法大臣松室致閣下題字
 京畿地方法院附屬
 辯護士法學士加古貞太
 郎先生序文
 關西大學校友
 附錄
 韓國財政顧問
 官小笠原寬先生序文
 越智唯七編纂

新舊
 對照
 朝鮮全道府郡面里洞名稱覽

大正七年一月一日現在（正誤表附）總クロース金文字、南版千五百十頁、定價金三圓、郵稅十八錢

府縣合併の整理と既に結したる土地調査局の調査と相俟し、朝鮮全道の行政區域は確定せり然れども、
 第一目瞭然たるの書籍なく執務上は勿論參考上將又
 朝鮮に精通せんとするもの此不便を必要を痛覺せられ、ある折に
 本書に附記の新舊と對照し第一目瞭然たるの道府郡面里洞名稱を編纂せり

所の所在地を示し、末尾に朝鮮の沿革、日鮮、清西、各道の詳細、對照年號を示し、管區數、人口、戶數、道路里數、本書は官廳を初め政治家、實業家、學者、交通產業、其他荷も朝鮮に關係を有する士の須臾も缺くべからざるの必携書なるは勿論内地と朝鮮との關係、諸事、日に密にして殆んど隣家の感あるに於て益々其の必要なること敢て多言を要せざるべし。
 せられたることを請ふ。

發賣元 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番
京城日報社代理部
 電話三二六六六〇 構内一八番

養 滋

聯合門
肝油
It-Drops
東京元寶堂

○肝油ドロップス
肝油含有量一點一五にして麥芽糖及び可溶性含窒素物を以て成ス
○複方肝油ドロップス
肝油の含量を半減して、有機質の有機糖及び石灰、規那等を全

○肝油ドロップス

甚しき臭味を忍びて肝油を飲用すべき時代は去れり
河合龍太郎氏創製

肝油含有量
一割以上
二割以上
三割以上
四割以上
五割以上
六割以上
七割以上
八割以上
九割以上
一割以上

價 定	大 人	小 人	嬰 兒
一割以上	一圓	五角	二角
二割以上	一圓二角	六角	三角
三割以上	一圓四角	七角	四角
四割以上	一圓六角	八角	五角
五割以上	一圓八角	九角	六角
六割以上	二圓	一圓	七角
七割以上	二圓二角	一圓二角	八角
八割以上	二圓四角	一圓四角	九角
九割以上	二圓六角	一圓六角	一圓
一割以上	二圓八角	一圓八角	一圓一角

強壯料



一、顔の色が蒼白くて肥の無き人。

一、皮膚の処理が悪く、ザラつきして居る醜い人。

一、身體一般に貧血して何と無く弱く或胃に滯り易い人。

一、日暮から物が見ぬ夜盲、及び營養不良から來た眼病の人。

▼如斯人は滋養料の複方肝油ドロツプスを用ふべし▲

一、手足が冷て瘦れぬ人。

一、色が蒼くて肉瘦せ、而して活潑なれど所謂腺病的の小兒。

一、髪が細長く、頭が瘦け、咳嗽や痰の並より多く出る所謂結核素質のある人。

一、結核に罹つてゐる人。

新式製法

司各脱

スフッロ

Cod Liver

4.5g - 1

店調原見九

一、骨の軟弱、即ち其種色々の骨節肉を太らせる。

一、身體一般に活動せん病後及び産後して壯健にな

一、骨の軟弱、即ち其種色々の骨節肉を太らせる。

一、身體一般に活動せん病後及び産後して壯健にな

<p>多山出帆廣告</p> <p>日傍五時出</p>	<p>大船行 泰昌易行</p> <p>正月十九日 正午出</p>	<p>日本郵船出帆</p> <p>正月十九日 正午出</p>	<p>尼海峽船出帆</p> <p>正月十一日 午後四時出</p>	<p>大船行 泰昌易行</p> <p>正月十九日 正午出</p>	<p>日本郵船出帆</p> <p>正月十九日 正午出</p>	<p>尼海峽船出帆</p> <p>正月十一日 午後四時出</p>	<p>大船行 泰昌易行</p> <p>正月十九日 正午出</p>	<p>日本郵船出帆</p> <p>正月十九日 正午出</p>
<p>湖北丸 二月廿八日 午後四時出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>	<p>安東丸 二月十一日 正午出</p>

[illegible][illegible][illegible]